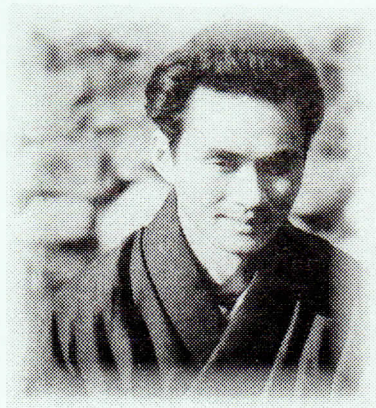


『動物哀歌』の詩人 村上昭夫 生誕85周年記念事業



私をうらぎるな



PROGRAM

●平成24年10月13日(土) ●午後2時～ ●プラザおでってホール

私をうらぎるな

夜を見はつて吠えているつな
がれた犬たち
私に向つて吠えるな
私が誰なのかを知つたなら
吠えることはできないだろうに

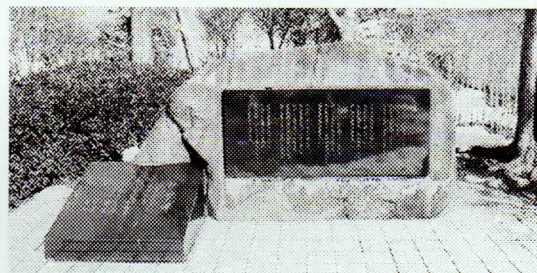
おびえる風のなかの雀たち
私の行先から舞い立つな
私が何を聞きたいのかを知つたなら
舞い立つ必要はあるまいに

地からはい出た痛ましい虫たち
暗い穴のなかに隠れてゆくな
私が何を捜しているのかを知つたなら
隠れる必要はあるまいに

冷たい水のなかの魚たち
私の足音が近づくからといって
わびしく散り去つてはゆくな
私が何処へ行くのかを知つたなら
散りさることはできないだろうに

私はそれを聞きにゆくのだ
私はそれを捜しているのだ
私は其処へ行こうとするのだから
どうか私をうらぎるな

昭夫三十才時、一九五七年の作



盛岡市立図書館の詩碑 「私をうらぎるな」の詩が刻まれている

◎生誕85周年記念「村上昭夫展」10月10日～12月20日啄木・賢治青春館で開催中(同館主催)

- 第1部 村上昭夫「詩の朗読会」** 朗読者 村上成夫(昭夫実弟) ギター伴奏 溝渕和雄
(コーラスグループ・サーカス元音楽監督)
- 第2部 パネルディスカッション** **パネリスト** 斎藤彰吾 詩人・農民文化賞選考委員長
岩手日報文芸欄「日報詩壇」が生んだ 北畑光男 詩人・元H氏賞選考委員
H氏賞の詩人「村上昭夫を語る」 城戸朱理 詩人・岩手日報文芸・詩の選者
岡澤敏男 歌人・宮沢賢治研究家
高橋克彦 作家
- コーディネーター

主催 村上昭夫生誕85周年記念事業実行委員会 (委員長高橋克彦)
共催 盛岡市 盛岡市教育委員会 (財)盛岡市観光コンベンション協会 岩手県詩人クラブ
石桜同窓会(岩手中・高等学校)
後援 岩手県 岩手県教育委員会 岩手県文化振興事業団 日本現代詩歌文学館 岩手日報社
IBC岩手放送 テレビ岩手 岩手朝日テレビ めんこいテレビ NHK盛岡放送局 盛岡タイムス
岩手日日新聞 東海新報 岩手ケーブルテレビジョン エフエム岩手 ラジオもりおか

【盛岡ブランド市民推進会議助成事業】

村上昭夫 生涯年譜

(斎藤彰吾氏編より抜粋引用)

昭和 2年	生 誕	1月5日、村上三好、タマカの長男として生まれる。 出生地は母の実家、岩手県東磐井郡大原町字清水田18番地(現在の同郡大東町) 戸籍上の出身地は父の実家、気仙郡矢作村諏訪41(現在の陸前高田市矢作町)
昭和 8年	6 歳	東磐井郡藤沢町立藤沢尋常小学校に入学。
昭和 10年	8 歳	父の転任に伴い、盛町立盛尋常小学校に編入。
昭和 14年	12 歳	上記小学校を卒業、盛岡の私立岩手中学校(現私立岩手高等学校)に入学。
昭和 19年	17 歳	学徒勤労動員により、約1年、間川崎市の軍需工場へ。
昭和 20年	18 歳	岩手中学校を卒業。満州国濱江省(当時)官吏に採用され、大陸に渡る。 8月15日、太平洋戦争終戦、帰国するまでの間に過酷な体験をする。
昭和 21年	19 歳	秋、帰国。引揚げ時の無理が後の病気の因をなす。
昭和 22年	20 歳	1月、盛岡郵便局事務員に採用される。
昭和 23年	21 歳	9月、盛岡郵便局郵政事務次官となる。職場の混声合唱団や機関紙の編集など、 文化活動に活躍する(25年の春まで)。
昭和 25年	23 歳	春、結核発病、自宅で療養。秋、岩手サナトリウムに入院。
昭和 26年	24 歳	岩手サナトリウムに入院してきた高橋昭八郎と知り合い、高橋の紹介により、 詩誌「首輪」の同人となる(2号から)。
昭和 28年	26 歳	2月、岩手サナトリウムを退院。5月、岩手日報学芸欄に「日報詩壇」(選者・草野心平) が設けられ、投稿を始める。その後まもなく選者村野四郎に代わり、 晩年まで投稿を続ける。村野を終生の師として仰ぐ。
昭和 29年	27 歳	2月、岩手県詩人クラブが結成され、会員となる。
昭和 30年	28 歳	3月、「願いにより」、盛岡郵便局郵政事務官を免ぜられ、激しいショックを受ける。
昭和 32年	30 歳	岩手詩人クラブの幹事となり、機関紙「皿」の編集を担当。
昭和 33年	31 歳	12月、「La」5号で、「動物哀歌」連載を開始。
昭和 34年	32 歳	レントゲン検査の結果、右肺に空洞ができていた。詩人クラブの仕事から手を引く。 5月、仙台市北四番丁64の仙台厚生病院に入院。
昭和 36年	34 歳	9月、右肺葉切除手術をする。あと5年位しか生きられない、と言われた。
昭和 38年	36 歳	8月、仙台厚生病院を退院。
昭和 40年	38 歳	3月、国立盛岡療養所に入院。結核、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胆嚢炎、悪性の貧血。 7月、退院。入院中に、原稿500枚ほどを整理する。
昭和 40年	39 歳	10月、大坪孝二、宮静枝らの懇望により、詩集刊行を決意。宮と大坪、高橋昭八郎に 全原稿を渡し、一切を委せる。詩集の題名を、『動物哀歌』にきめる。
昭和 42年	40 歳	1月、かつての療友で俳句作家の昆ふさ子と結婚。 6月、再度、国立盛岡療養所に入院。9月18日、詩集『動物哀歌』を上梓。 (Laの会刊/限定300部) 10月、『動物哀歌』により、第8回土井晩翠賞受賞。家族が代理出席。 11月、晩翠賞受賞祝賀会が開かれた。父、弟、医師に付添われて出席。
昭和 43年	41 歳	3月、『動物哀歌』により、第18回H氏賞を受賞。 5月、東京新宿で開かれたH氏賞受賞記念「五月の詩祭」に、家族が代理出席。 6月、視力の減退を感じ、次第に眼が見えなくなり、字も書けなくなる。 10月11日、午前6時57分、国立盛岡療養所で、肺結核と肺性心の合併症、 および長い闘病生活のため、全身衰弱で永眠。13日、告別式。

村上昭夫 朗読詩 紹介

⑥ 雁の声

雁の声を聞いた
雁の渡ってゆく声は
あの涯のない宇宙の涯の深さと
おんなじだ

私は治らない病気を
持っているから
雁の音が聞こえるのだ

治らない人の病は
あの涯のない宇宙の涯の深さと
おんなじだ

雁の渡ってゆく姿を
私なら見れると思う
雁のゆきつく先のところを
わたしなら知れると思う
雁をそこまで行って抱けるのは
私よりほかないのだと思う

雁の声を聞いたのだ
雁の一心に渡ってゆくあの声を
私は聞いたのだ

■ 朗読会 出演者 紹介 ■

● 村上 成夫 むらかみ・しげお 氏

1941年、盛岡市生。村上昭夫の実弟。盛岡一高、東京電機大学卒。IBC岩手放送社に17年間勤め、放送ディレクターを歴任。現在、「ステンドグラス工房・趣存」の代表。毎年、村上昭夫の詩の朗読会を続けておられます。

● 溝淵 和雄 みぞぶち・かずお 氏

東京都生。現在、東和町在住にて、作曲や演奏活動をギター奏者として活動をなされている。コーラス・グループの「サーカス」の元音楽監督としても有名な音楽家です。

■ パネラー・コーディネーター プロフィール ■

● コーディネーター 高橋 克彦 たかはし・かつひこ 氏 作家

1947年釜石市生。岩手高校、早稲田大学卒。主な著書は『写楽殺人事件』江戸川乱歩賞、『総門谷』吉川英治文学新人賞、『北斎殺人事件』日本推理作家協会賞、『緋い記憶』直木三十五賞、『火怨』吉川英治文学賞。NHK大河ドラマ原作『炎立つ』『北条時宗』などである。第54回NHK放送文化大賞、第15回日本ミステリー文学大賞、など受賞。著作数は約300点にのぼる。『石桜70年史』での佐藤章氏との対談や、日本現代詩歌文学館の『没後30年・村上昭夫「動物哀歌」への道』に「村上昭夫さんの思い出」を寄稿されています。盛岡市在住です。

● 斎藤 彰吾 さいとう・しょうご 氏 詩人

1932年北上市生。黒沢尻高校(現黒北高)卒。詩誌『首輪』を高橋昭八郎・渡邊眞吾らと創刊。「岩手県詩人クラブ」結成に参画し、詩誌『Là』『微塵』『化外』など同人経歴。現在は詩誌『新現代詩』『詩人会議』『堅香子』『ベン・ベ・ロコ』に所属。「日本現代詩人会」会員、「岩手県詩人クラブ」常任委員、「日本現代詩歌文学館振興会」評議員、「岩手県農村文化懇談会」世話人、「農民文化賞」選考委員長、東北学「北天塾」塾頭を務める。著書に、詩集『榛の木と夜明け』、絵本『なりくんのだんぼーる』、詩論集『真なるバルバロイの詩想』などがあります。北上市在住です。

● 北畑 光男 きたばたけ・みつお 氏 詩人

1946年岩泉町生。盛岡農業高校、酪農学園大学卒。詩誌『核』『地球』『マグノリア』、現在は『撃竹』『歷程』同人。村上昭夫研究誌『雁の声』を主宰。「日本現代詩人会」・前理事、「埼玉詩人会」・前理事長、「日本現代詩歌文学館」評議員、日本文藝家協会会員、埼玉文芸家集団常任理事、岩手県詩人クラブ会員。詩集『救済まで』第3回富田碎花賞、『死はふりつもるか』第13回埼玉詩人賞、他に『飢饉考』『北の蜻蛉』など8冊。共著に『荒川流域の文学』『埼玉文芸風土記』など。H氏賞選考委員(2回)、日本詩人クラブ賞選考委員、日本詩人クラブ新人賞選考委員他を務めた。埼玉県在住です。

● 城戸 朱理 きど・しゅり 氏 詩人

1959年盛岡市生。盛岡一高、明治大学卒。詩集『不來方抄』で歴新鋭賞、詩集『幻の母』で芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞した。現在、「六本木詩人会」同人。「岩手日報」の詩の投稿欄選者として、郷土の若い新人詩人の育成にも尽力されている。著書は『召喚』『モンスーン気候帯』『非鉄』『まんぼう』『夷狄バルバロイ』『千の名前』『地球創世説』『世界-海』、『現代詩文庫・城戸朱理詩集』ほか、詩論を含め多分野にわたる。詩学雑誌『現代詩手帖』に、村上昭夫論の「語り得ぬものに向って」を発表。思潮社・現代詩文庫版の『村上昭夫詩集』にも推薦文を寄せられています。神奈川県在住です。

● 岡澤 敏男 おかざわ・としお 氏 歌人

1927年盛岡市生。旧制岩手中学校、盛岡農林専門学校卒。教員を歴任し、会社勤めの後に元・小岩井農場展示資料館長を勤める。『賢治歩行詩考・長編詩「小岩井農場」の原風景』で「宮沢賢治賞」奨励賞を得る。現在は『北宴』同人、『ワルトラワラ』に参会。小泉とし夫の名で盛岡タイムスに「村上昭夫の肖像」全70回を連載した。同紙に「オー克蘭ドの旅人」全164回連載などがあります。村上昭夫の同級生で、宮沢賢治研究家で盛岡市在住です。

◆ 村上昭夫生誕85周年記念事業実行委員会

実行委員長 高橋 克彦 実行委員代表 小枝指 博

実行委員 (岩手県詩人クラブ) 東野 正・斎藤 彰吾

(岩手中・高校「石桜同窓会」) 岡澤 敏男・中村 光紀

① こおろぎのいる部屋

部屋にはこおろぎがいるのに
なぜこおろぎの話をしないのか
この部屋の人達はみんな女の話ばかりする
女は男の話ばかりする
そしてそのために
みんなが猜疑し合っている
みんなが猜疑し合っている
部屋にはこおろぎがいるのだ
秋になるとどの部屋にも
きまってこおろぎがでてくるのだ
こおろぎは世界のすべての恐怖や
死や病いや離別やその霧の彼方とかいうものと
同じ深い方向からくるのだ
それをこおろぎというのだ
だのにこの部屋の人達は
みんな酒に酔う話ばかりする
女は男が酒に酔う話ばかりする
そうしてみんながそのために
軽蔑し合ってばかりいる
こおろぎを話さずればいいのだ
こおろぎがなぜ現れてきたのか
こおろぎが現れなければならぬ不思議が
世界の何処かにあったのか
こおろぎのかたちのことを
こおろぎの鳴く音のことを
こおろぎの遠い日の恐怖のことを
この部屋で
話さずればいいのだ

② 一番星
— 一番星はどんな星

一番星は空の悲哀の子だ
あとからどんなに沢山の星が出てきても
一番星は慰められない空の孤独の子だ
一番星は空のかたくなの子だ
あとからどんなに愛の言葉を投げかけても
一番星は救われない空のかたくなの子だ
一番星が出てくると
にわかには空は暗くなる
それから沢山の星が集り
沢山の見えない世界の星雲が集り
一番の不幸な孤独を監視する
誰もがそれになりたくないから
一番星は最初の不安を空にもたらした
それゆえに何時までも世間にとけこめない
空のひどいかたくなな
不良の放蕩の子なのだ

③ 豚

悲鳴をあげて殺されて行け
乾いた日ざしの屠殺場の道を
黒い鉄槌に頭を打たせて
重くぶざまに殺されて行け
皮を剥がれてむき出しになって行け
軽いあい色のトラックに乗って
甘い散歩道を転がって行け
生あたたかい血を匂わして行け

臓腑は鴉にくれて行け
そのために屠殺場が近いのだと
思わせるように鴉を群れさせて行け

人は涙など流さぬだろう
人は愛など語らぬだろう
人は舌鼓をうってやむだろう
その時お前は
曳光弾のように燃えて行け

④ お母さん

お母さん
海の音を聞かして下さい
海の貝殻の音を
母という名を聞かして下さい
私は思い出す
二億年ばかり前のこと
あなたが二億年変らない海だった日を
ひたひたと広がるあなたのなかに
可憐な三葉虫の姿が
奇蹟のように生まれていた日のことを
私をもっと思い出す
それからの火や泥の世界のことを
試みられていた愛のつぶつぶが
氷河よりも固く凍ってしまった
永い暗かった時間のことを
お母さん
その時あなたのなかに鳴り続けた
小さな貝殻の終りのない音が
どんなにやさしくて強かったか

今日も波が寄せています
とても永かったあなたの疲労のように
貝殻がさやさや鳴っています

お母さん
あなたの音を聞かして下さい
あなたの白い貝殻の音を
静かに聞かして下さい

⑤ 五億年

五億年の雨が降り
五億年の雪が降り
それから私は
何処にもいなくなる
闘いという闘いが総て終りを告げ
一匹の虫だけが静かにうたっている
その時
例えばコオロギのようなものかも知れない
五億年以前を鳴いたという
その無量のかなしみをこめて
星空いっぱいにしんと鳴いている
その時
私もう何処にもいなくなる
しつこかった私の影さえも溶解している
その時
五億年の雨よ降り
五億年の雪よ降り